

№998
2 / 15
平成5年(1993年)

平成5年(1993年)

広報まえばし

人口	28万7042人	(-50)
男	14万0750人	(-17)
女	14万6292人	(-33)
世帯	9万8926世帯	(-12)
—平成5年1月末日現在—		
()内は前月との比較		

発行・前橋市役所 〒371 前橋市大手町二丁目12-1・電話24-1111(大代表) 編集・企画部広報課 毎月1日・15日



ピックアップ

伝えよう前橋の“昔話”…2-3

- ▷ 都市計画案を縦覧します… 3
 - ▷ 確定申告は3月15日まで… 4
 - ▷ 募金の総額が4678万円に… 4
 - ▷ "Jリーグ"のオープン戦… 5
 - ▷ 来月に春の火災予防運動… 6
 - ▷ 平成4年の救急活動報告… 6
 - ▷ 防虫の散布器を貸し出し… 7
 - ▷ 市民のうた作詞山田さん… 8

○：問い合わせは市制施行一〇〇周年記念事業推進室内線3519、商工会議所(34)5111へ。

『赤城あろし』に凧が舞う

3月7日に全国凧揚げ大会

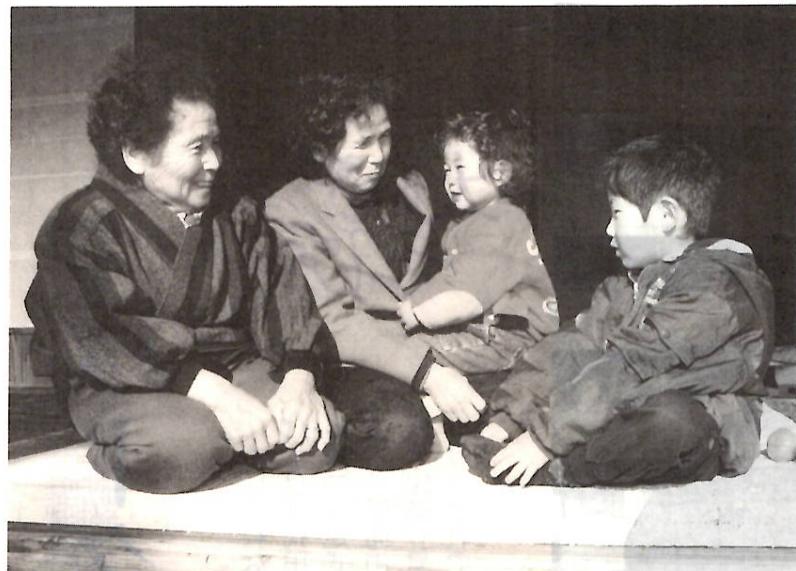


「ふーちゃん」の風も登場

この広報紙は再生紙を使用しています。

平成5年2月15日号

前橋の昔話



おばあちゃんが聞かせてくれる昔話——いつまでも残したいですね

親子で
楽しく

地域に根ざし、昔から人々に語り継がれてきた数々の昔話——。そこには、私たちの祖先から受け継がれた“ふるさとへの思い”がこめられています。親子で親しんで、これらを語や伝説などは、図書館の「ふるさとの本」——「郷土資料室」などに関係書があります。なお、ここで紹介した昔話は、「前橋の伝説百話」(市観光協会刊)を参考にしました。

端氣町善勝寺の

あみだや

端氣町にある善勝寺(さむねいじ)は、指定重要文化財の鉄造阿弥陀如来座像があります。これには、次のような言い伝えがあります。

鎌倉時代の仁治三年(一二二四)の十二月、全国を歩いていた親鸞上人が小坂子の月山にあつたお堂に立ち寄りました。住職の慶雲和尚のもてなしで、上人は春が来るまでここで休むこ

それからには、上人の有り難いお話を聞くため、お寺にはたくさんさんの村人が集まりました。やがて「上人様に阿弥陀如来を造つていただこう」という声が上がり、上人はたいへん喜び協力することになりました。

大なお祝いの式を挙げました。上人和尚は七日間も誦経したということです。こうして、上人はこのお堂に五月二十二日までとどまり、名残を惜しむ村人たちに見送られながら前橋へと向かいました。

その後、近郷の人たちはこの如来の靈験を慕つて毎日五、六百もの人たちが参詣するようになりました。この如来像の放光のまぶしさに、近くの道さえ通り抜けることが難しく、馬に乗っている人などは、必ず落馬したそうです。そこで村人たちはお堂の前に塚を築き、その場所は「築山」と呼ぶようになつ

敷島公園の南西に架かる大渡橋——。萩原朔太郎の「郷土望景詩」の中でも「無限に悲しき橋なり」とうたわれている所です。この「大渡」という名前には次のような悲しい物語が伝えられています。

昔々、この上野国の赤城山のふもとに王様が館を構えていました。王は、妃を京の都に残しました。王は、一人で上野国に赴任していました。

ある日、王は二、三人の供を連れて利根川べりを歩いていました。大渡付近まで来て、舟に

「大渡」の
名の由来

「水をもらうことにしました。この家の井戸で水を飲もうとすると、そこでは美しい娘が洗濯をしていました。娘は仕事の手を休め、顔を赤らめながら王に水を差し出しました。王はその水のうまさもさることながら、その娘の美しさにすっかり魅せられてしまい、それからといふものは、しばしばこの場所を訪れるようになりました。やがて、二人の心には恋が芽生え、樂しい日々を送っていました。

こんなことがあってから、王は都にいる妃への愛情が薄れた

妃が上野国へ来てからは、王も娘の所へ通うことができなくなり、娘は王が来ないので、悲しい思いを日ごと募らせていました。そして、悲しい日々が続く中、娘はかつて王に聞かせた琴を心ゆくまで奏で、愛する王の名前を呼びながら利根川へと身を投げたのでした。

乗り対岸へと渡りました。この時、急にのどが渴いて水が飲みたくなりました。ちょうど近くに菫(すみれ)の家があり、王はここ

たと「われています
戦国時代の永禄二年（一五五九）に、このお廟に盜賊が入り、
如来像を背負つて盗み出しました。ところが、途中で足が痛み
出し、村の西南の深い田んぼに投げ捨ててしまつたのです。
江戸時代の元和五年（一六一

「騒あらたかな如来像である」ということが分かり、領主は自分の領内に寺を建て、如来像を安置することにしました。

A black and white illustration of a seated Buddha figure, likely Shakyamuni, with a serene expression, wearing a monastic robe, and a radiant halo behind his head.

ジョウのかば焼きと称して、栄養満点のウナギを食べる人も。

になつてしまひました。それも
そのはず、ふだんから村人たち
は、「虚空蔵さまのウナギを食べ
ると目がつぶれる」と言われて
いたからでした。村人たちは心
配で心配でいたたまれず、みん
なで水ごりをとり、一心に虚空
蔵さまにお許しを請いました。
これを見ていた加賀の人と山
伏は、「私たちは片貝の生まれで

夜が明けでみると、夕べ村人たちをあざ笑つた山伏は、両目とも見えなくなつてしまひました。一方、加賀国の人は朝方はなんともなかつたのですが、途中で急に腰が抜けてしまい、とうとう動けなくなつてしましました。村人たちは、「虚空蔵さまのたたりだ」と恐ろしさを知つたということです。今では、ド

『日記』の語で、は
きんが、十二日で百歳を迎えた。
した。八日には藤嶋市長が表敬
訪問、園の皆さんと長寿を祝い
ました。

群馬銀行の土金琢治頭取から
二日、二千五百万円の寄付。十四
日にグリーンドームで開催され
る「'93前橋国際室内陸上競技大
会」の運営費に活用されます。

卷二

A black and white photograph of a modern architectural complex. On the left, a cylindrical tower rises, its surface appearing textured or ribbed. To its right is a long, low building with a series of horizontal bands or levels. The building's facade has vertical columns supporting overhanging eaves. The sky above is dark and filled with dramatic, swirling clouds.

☆
都市景観に強い関心
三日、市民文化会館で都市景観講演会が開かれました。満席の会場は立ち見も出るほど。講師を務めた宮脇さん(みやわきさん)の話に熱心に耳を傾けていました。

百五十人の小中学生が参加、戦が繰り広げられました。

REBAST-ZOW
れました。地区を代表して約一

☆ 城東町立体駐車場を着工

城東町立体駐車場の“安全祈願祭”が2日、同町二丁目で行われ、藤嶋市長らが工事の無事を祈りました。収容台数は415台で、眺望が楽しめるシースルーエレベーターも設置。来年2月完成予定です。

児童文化センター
☎(24)2548

□星と音楽のタベ

2月27日(土)午後6時～8時。小中学生とその親、先着六十人。講師は六中教諭・岸敏郎さん、永明小教諭・小林英子さん。内容は楽器演奏、プラネタリウムとお話。申し込みは2月20日(土)午前9時から同館へ直接(電話でも可、ただし来館者優先)。

□3年生の楽しい自転車教室
2月28日(日)・3月14日(日)・3月28日(日)のうち一回、午前9時～10時30分。小3、先着各四十人。申し込みは2月21日(日)午前9時から同館へ直接(電話でも可、ただし来館者優先)。

□春の自然趣味展
3月12日(金)～14日(日)、午前9時～午後5時(14日は午後3時30分まで)、市民文化会館。「花と雑木の盆栽展」をお楽しみください。

○：問い合わせは社会教育課内線4023へ。

市民芸術文化祭

市立図書館
☎(24)4311

□委託文庫「お話と映画会」

2月19日(金)午前10時～11時30分、ひかり文庫(下川町二七)二鍵田清美さん宅。お話を「ワニくんのあし」、映画を「アラレちゃんの交通安全」など。出演は萌えぎの会。

□移動図書館「いづみ号」紙芝居・手品教室

2月20日(土)午後2時～3時30分、上新田町公民館。「アラジンとふしぎなランプ」「ふしぎなねた」。出演は萌えぎの会、富永幸三郎さん。

□郷土の人事物記資料展II
2月23日(火)～3月14日(日)、午前9時～午後5時(3月14日は午前9時～午後2時)～4時。新入郷土の人事物記資料展II。

□お話の会
2月27日(土)午後2時～2時40分。

○：問い合わせは社会教育課内線4023へ。

16番映写技術認定証を持つている人。
16番映写技術の再研修、新しい機器の紹介、映画上映など。申し込みは当日同館へ直接。

わ光る！
不況でも強い成長小

プロサッカーのスピードあふれるプレーを――。市制施行〇周年を記念して、「日本プロサッカーリーグ前橋オープン戦」が県営敷島陸上競技場で開催されます。この試合に市民のみさん三千人を無料でご招待。対戦チームは、「日産マリノス」と明記して市制施行(〇〇周年)記念事業推進室へ当選者の発表・招待券の発送をもつて代えさせていただきます。

○：問い合わせは同事業推進室内線3519へ。

と「清水エスパルス」です。観戦希望者は、奮ってご応募ください。

日時：4月10日(土)午後1時会場：県営敷島陸上競技場 対象：市民三千人(抽選) 申し込

み：3月10日(水)当日消印有効までにハガキで。住所・氏名・年齢・職業・電話番号、「Jリーグ前橋オープン戦観覧券」と明記して市制施行(〇〇周年)記念事業推進室へ当選者の発表・招待券の発送をもつて代えさせていただきます。

○：問い合わせは同事業推進室内線3519へ。

と「清水エスパルス」です。観戦希望者は、奮ってご応募ください。

日時：4月10日(土)午後1時会場：県営敷

平成4年の「救急」概要がまとまる

昨年11月に本市第一号の「救急救命士」が誕生

昨年、一年間に救急車が出場した件数は五千七百六十件、病院に運んだ人員は五千九百五十六人でした。前年と比較すると、件数で二十七件、人員で四十五人それぞれ増加しました。

救急車の出場で最も多かった日は一日に三十回、少なくとも四回あり、一日当たりでは十五・三人（同十六・二人）を搬送。

また、市民の四十八人に一人が

●

救急車で病院に運ばれた計算になります。

●

急病が44%

事故別の出場件数は、一位が急病で三千五百四十六件（前年二千四百四十八件）と全体の四・二%を占めています。二位が交通事故で千八百五十八件（前年一千九百五十一件）三二・二%でした。

●

搬送人が全体の4割

搬送人員を傷病程度別に見る

●

お年寄りが年々増加

年齢別では老人（65歳以上）

五百十二人、成人（18歳～64歳）三千五百七十三人、少年（7歳～17歳）五百三人、乳幼児（生後29日～6歳）三百五十人、新

生児（生後29日未満）十八人と

●

救急救命士が誕生

院治療を要するもの（三千四百七十六人、重症（三週間以上の入院治療を要するもの）二千四百八十八人、中等症（入院治療を要しないもの）二千四百六十八人、軽症（入院治療を要しないもの）二千四百五十六人）

●

救命率が毎年増加していると考えられます。

●

救急救命士が誕生

老人が占める割合は約四〇%。

高齢化社会の進展から老人の急病が毎年増加していると考えられます。

●

救命率を向上させるために、

救急救命士の応急処置範囲の拡大や救急救命士制度が平成三年八月に施行されました。昨年十一月、本市消防本部にも第一号の「救急救命士」が誕生（県内で二人目）。医療器具を使用しての異物除去など、九項目の拡大されました。応急処置を行っています。

●

救命率を高めるには、救急車

